歴代かわら版解説
1994年9月号

7月例会家族会報告

7月24日日曜日、阿部部長引きいる会員開発部会担当による「ワイワイガヤガヤ楽しく学ぶ」をモットーに三浦海岸津久井浜東海岸にて地曳網を楽しみ、とれた魚でバーベキューという趣向で家族会が開催されました。

朝、6時45分二台の大型バスにより首都高速にて一路三浦海岸へ、前日まで台風の影響が心配されましたが、波もなく又、空には雲一つない日本晴れ、そのなかで地曳網が二回行われ釣果は、キス、ボラ、アオリイカ、タコ、イセエビ等、子供達は大喜び、ただ、あまりにも天気が良すぎ、真夏でしたのでお母さん、お父さん達は、グロッキー気味、又、鯨井理事長より次年度理事長の有田保夫君を推薦するとの発表がありました。

事故もなく夕方6時昭島に帰ってきました。大変お疲れ様でした。

卒業にあたって

長瀬　透

目を閉じると、走馬灯の様に十七年間のＡＩＪ生活が蘇ってくる。十三代理事長・大堀宏特別会員に入会を勧められ、新入会員予定者として挨拶、足が震え、心臓がとび出しそうな程に緊張した事を思い出す。

当時、個性豊かなゴッツイ、ミスターＡＩＪの先輩達が多く、「理事長をめざせ！」「経営者（リーダー）の道場だ！」「立場の勉強」「時間はつくるもの！」「頼まれたら断わらない！」「三分間スピーチ」「規約、マニュアルについて」等々、ＡＩＪ精神を学び、体験を通して、試行錯誤しながら、自分をより向上すべく燃し続けて参りました。（完全燃焼を誓う…）

春季セミナーにおいて、毎度「ＡＩＪについて」「人生について」夜通し朝まで、語り合った思い出、家族会の準備で「手作り」をモットーに、そうめん流しの樋、食器、はし、他総て竹を切り出して、必死で製作し楽しんでもらった思い出、クジラ祭りで、全会員の協力のもと、汗まみれになってチビッ子広場、クジラ製作、パレード、ＡＩＪコーナー等々、完成させる苦難とそして喜びの涙、そこには、必ず大きな友情と絆が、生まれていた思い出。

ＡＩＪの目的、「経営者としての資質の向上と会員相互（家族ぐるみ）の親睦を深める」ですが、私にとって、正に多くの方々と関わることのすばらしさ、心の豊かさを身体で教えてくれた会（ＡＩＪ）と確信しております。この十七年間に何百、何千の人達との忘れられないすばらしい出会い、関わりが出来たことに、人生の宝物を得たと心から感謝しております。

スローガンとして、「和」「人脈づくり、人づくり、と掲げ、二十八代理事長の大役を仰つかったときには、山梨青工会と十三年ぶりに、石和の地にて、合同例会を行ない、同世代として引合うものを感じて、同じ目的意識の中で、今後活発な交流を進めるべく誓い合う。（再会）

特に、文化森コンサートの一環として、ビックイベント、国立ハンガリー交響楽団演奏会を開催するにあたり、内外の多くの方々に絶大なるご支援、ご協力を戴くことが出来ました。準備として、ハンガリーを半年前に訪問するエネルギッシュ金銭的、人力的にも多くの方々に大変ご迷惑をお掛けすることに成りましたが、ＡＩＪ会員の熱意が通じて、昭島六団体をはじめ、他団体、多くの企業に、ご協力と励ましを戴き、勇気を持って、今までにないスケールで、昭島に文化の花を咲かすことが出来ました。このことは、早くから、目標設定を行なった賜物。会員一人一人が、真剣に取り組んだからであり、本気の精神が多くの人々の心を動かしたのだと信じています。

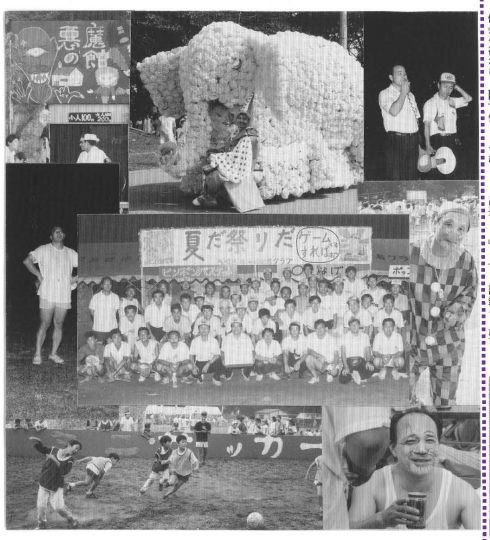
「ＡＩＪが動くと、何んでも出来る！」という語録を、残された先輩がおります。十七年間のＡＩＪ活動の中で、私に勇気と自信、そして行動力を御指導戴くと共に、人に関わることの大切さと、人を愛する心を養い、学ぶ事が出来ましたことに深く心から感謝し、喜びで一杯です。

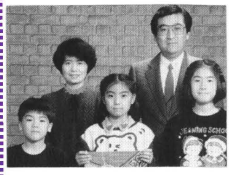
大変ありがとうございました。あと残された時間を出来る限り感謝を込めて恩返しが出来れば幸いです。

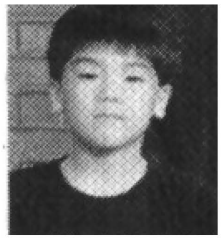
今後のＡＩＪの活躍を心からお祈りしております。

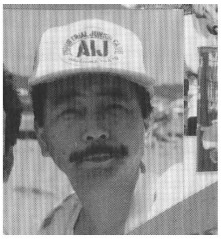
広報室くじら祭り報告

今年もやってきましたくじら祭り、広報室では今年も例年どうり、コーナー担当です。何ヵ月も前から準備し、連日連夜おそくまで作業をしたかいあって、大変すばらしく又、楽しいコーナーができたと思います。又四十度近い猛暑の中ほとんど、休まずガンバッテくれた室員の皆様、無理矢理お手伝いさせられた奥様方、又、御協力して下さったメンバーの方々大変、ありがとうございました。









1994年当時の長瀬会員・阿部先輩・長瀬先輩

過去のかわら版記事を読んで
理事長　　笹川　義昭

ＡＩＪと言えばくじら祭。
当時のかわら版は「祭り」と送り仮名がついています。この機微が伝わるでしょうか(笑)。

この時代のパレードに使われていたくじら号は三十一代理事長の有田先輩の倉庫で作られていたと、昨年の六月にお話を聞かせて頂きました。ご子息の雄祐さんもくじら号の製作は子供の頃の記憶として残っているそうです。雄祐さんと仲良くなれたのでＡＩＪに勧誘してみましたが、丁寧に辞退されてしまいました(笑)。
その有田先輩の得意なスポーツはサッカー。そしてくじら祭で会員開発部会がミニサッカーを担当。当時の部長は阿部先輩。そう、毎年のスローガンを書いて頂いている先輩です。

その阿部先輩は、家族会の会場の三浦海岸で、海水を引き込んで簡易トイレを作った思い出があり、そのトイレ製作の担当は清水会員のお父様でした。
かわら版を読み解いていくと、繋がりを発見できますね。

過去かわら版記事を読んで
直前理事長　　長瀬　雄一郎

過去かわら版記事の中に特別会員の長瀬先輩の記事があった。私の父です。

読み進めていくと例会作りへの熱量の高さを強く感じる。私は相手に見えないところでも、どれだけの熱を生み出せているだろうか。
父は今でも、ジリジリと相手が焼けてしまうのではないかと思うほど熱い人で、人前に立つことを得意としていますが、入会当初は震えていたとのこと。きっと、当会で揉まれる中で磨かれ身に付け、内にあるものが開花したのであろうと思う。そのためには、多くの諸先輩方の築いてこられた歴史と経験が必要不可欠であったことは、ＡＩＪ語録に刻まれ受け継がれてきた志に見て取れる。会員は自身の為に入会していると思うが、人は一人ではなく、周囲があってこそである。自身の為を超えて後輩の為に先人への感謝を込めて尽力すべきだろう。
因みに父を入会に導いた十三代理事長の大堀先輩は、弊社の創業初期頃に勤められていた深い関わりのある人物です。